

9 梅花唐美人図 国井応文 一幅

絹本着色  
江戸時代後期(十九世紀)  
本紙一二〇・四×五六・〇



国井応文(一八三三〜一八七七)は、京都の医者の子に生まれる。母が円山応挙の孫で、円山家第三代応震の妹にあたる。四代応立に師事して画技を学び、山水花鳥に優れて、応立没後は一門の後継者となった。安政度内裏御造営の際にも一門と参加して、常御殿などの襖絵を描いている。慶応二年(一八六六)頃の如雲社設立に際しては、おなじ円山派の中島来章、塩川文麟らと共に尽力し、明治十三年(一八八〇)には、京都府画学校への出仕を拝命している。明治期には京都博覧会や内国絵画共進会などに出品し、活動の場を広げた。近世

から近代へ、円山派をつなぐために尽力した一人である。

本図は、円山派の祖・応挙以来、円山派が得意とした唐美人図で、月夜に白梅の樹に寄り掛かる美人図である。応挙世代の円山派絵師たちの描いた唐美人図と比べて、そのプロポーションなどはその伝統的な姿を良く守っているが、より写実的な豊かな人物表現になっている点に特徴がある。まくりの状態のままで保管されてきており、皇室の御用によって描かれ、出来上がったままの姿を知る作例としても興味深い。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

描き継ぐ日本美 — 円山派の伝統と発展

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 59

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年九月十五日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections